

サウンドスケープの教室 詳細スケジュール

午前の部は11:30~12:00、午後の部は13:30~14:00

日時・時間帯	タイトル	講師	概要	主な対象
10/05 午前	過去の音の研究について—明治期末の京都の事例を中心に	上野正章（大阪大学文学研究科・京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）	サウンドスケープの研究において大きな領域を占める分野に過去の音の研究があります。なぜ過去の音の研究—歴史的なアプローチが重要なのかということから説き起こし、次いで、研究の方法を紹介し、最後に、明治期末の京都を事例にして研究の実際を示すことを試みます。	主として高校生以上
10/05 午後	日本庭園にひそむ音風景	土田義郎（金沢工業大学 環境・建築学部 建築系）	私たちの文化遺産として、今も多くの庭園が残されています。庭園はその時代の世界観を色濃く反映しています。現実世界では得がたい何かを実現しようとしていたのです。それは視覚的な美だけではありません。聴覚的にも工夫がこらされていたのです。ここでは大名庭園である金沢の兼六園を事例として日本庭園の中の音風景について解説します。	主として高校生以上
10/06 午前	フィールドレコーディングの世界(1)	柳沢英輔（国立民族学博物館）	近年、スマートフォンの普及やICレコーダーの高性能化などを背景に、誰もが気軽に音を録ることができるようになりました。散歩や旅行の際に風景を写真に撮るように、特定の場所や空間の音風景を記録する。このような行為をフィールドレコーディングと言います。ここではフィールドレコーディングの概要とその魅力について解説します。	主として中学生以上
10/06 午後	フィールドレコーディングの世界(2)	柳沢英輔（国立民族学博物館）、笹島裕樹（サウンドアーティスト）	フィールドレコーディングを主体とした活動を行っているサウンドアーティストの笹島裕樹氏を迎えて行います。環境音の録音方法、音を用いた作品制作などについて解説します。また様々なマイクロフォンを用いて記録した音風景を実際に聴いてみることで、人間の聴覚を超えた多様な音の世界に触れます。	主として中学生以上
10/12 午前	音クイズ	鈴木秀樹（慶應義塾大学DMC研究センター）	難しいことは考えずに「音を聴く」ことを考えてみましょう。音のクイズをたくさん用意します。「こんな音、聴いたことないよ!」というものから「え、いつも使っているこれがこんな音を出すの?」というものまで。耳を澄まして当ててみよう!	子どもから大人まで
10/12 午後	アオマツムシは騒音害虫か?	大谷英児（独立行政法人森林総合研究所昆虫生態研究室）	アオマツムシは晩夏から秋の日没から深夜まで大音量で鳴きます。他種と混在して鳴く場合、カンタンなど低周波の虫は聞き分けやすいのですが、多くのコオロギ類やキリギリス類などではマスキングされて聞き取りにくくなります。このことは、他の鳴く昆虫の種内交信を攪乱する恐れがあるほか、人間にとってのサウンドスケープをも劣悪化します。	主として中学生以上
10/13 午前	子どもの聴く耳を呼び覚ますために ~音当てクイズトライ!~	東海林 恵里子（山形市立南沼原小学校）	子どもが「意識して音を聴く」活動の出発点に、私が行っている「音当てクイズ」を実際に行います。ブラックボックスの中に、おもちゃの音やカウベル、手太鼓など材質の違う音素材を用意し、クイズというあそびの活動を通して、音のおもしろさや音の性質（方向、大小、長短、高低など）に気づいてもらえたらと考えています。さらに音を描く活動にもつなげられたら幸いです。	子どもから大人まで
10/13 午後	美しい河川の景観に伴う音環境の研究	岡本 久（神戸山手短期大学 表現芸術学科）	平成24年度および今年度（25年度）、河川財団による河川整備基金の助成を受け、タイトルに示す通りの研究（調査・記録および比較・分析）を行っています。本教室では研究の概要および状況について、写真や録音記録等を用い、わかり易く紹介します。	主として高校生以上
10/19 午前	【震災プロジェクト1】定点観測プロジェクトより	川崎義博（東京藝大先端芸術表現科）	3.11後に始まった、定点観測プロジェクトより、音環境の記録などその内容の説明、及び、途中経過報告をお聴かせし、阪神淡路大震災の調査実例を交えつつ、音から見えて来る「街」の変遷に触れて行きます。	主として高校生以上
10/19 午後	【震災プロジェクト2】原発事故後の福島音環境に何を聞か?	永幡幸司（福島大学共生システム理工学類）	東京電力福島第一原子力発電所の事故の煽りを食い、福島音環境は、事故前とは異なったものとなってしまいました。この変化した音環境から、私たちは何を聞き取ることができるでしょうか。2011年5月から福島で録音してきた音を聞きながら、参加者の皆さんと共に考えてみたいと思います。	主として高校生以上
10/20 午前	【震災プロジェクト3】被災した「音風景100選」の現場に何を学ぶか?	鳥越けい子（青山学院大学 総合文化政策学部）	「残したい日本の音風景100選」は、1996年に当時の環境庁（現環境省）が実施した事業。東日本大震災は、それらの音風景にもさまざまな影響を与えました。「碓石海岸・雷岩」「宮城野のスズムシ」等、被災した音風景の現場を報告しながら、私たちがそこから学ぶことは何か、皆さまと共に考えます。	主として高校生以上
10/20 午後	【震災プロジェクト4】日本サウンドスケープ協会震災プロジェクトを通して見えてきたこと	永幡幸司（福島大学）、川崎義博（東京芸術大学）、鳥越けい子（青山学院大学）	日本サウンドスケープ協会では、東日本大震災とそれからの復興の過程をサウンドスケープの観点から見つめ、記録し、記憶に留めることを通して、私たちが生活する音環境のあるべき姿を考えることを目的として、「震災プロジェクト」を立ち上げました。この教室では、このプロジェクトで見えてきたことについて紹介します。	主として高校生以上

サウンドスケープの教室 詳細スケジュール

午前の部は11:30~12:00、午後の部は13:30~14:00

日時・時間帯	タイトル	講師	概要	主な対象
10/26 午前	ラジオ放送における音風景	村田武之（文化放送・青山学院大学大学院）	様々な情報、音楽、ニュースなどをお届けするラジオ放送は音声のみのメディアです。音声のみであるがゆえに、聞き手に想像力を働かせてもらうよう、様々な音の工夫がされています。効果音や演出のための音もそのひとつです。ここでは、効果音を中心に取あげつつ、ラジオ放送における音風景を解説します。	主として高校生以上
10/26 午後	映画音響とサウンドスケープ（映画音響を考える）	瀬川徹夫（映画録音技師フリー、日本映画テレビ技術協会、早稲田大学大学院国際情報通信研究科、城西国際大学メディア学科）	ここ1~2年の間に映画音響に於ける環境は大きく様変わりしてしまいました。フィルム録音と呼ばれた光学式録音を捨てた映画音響の今後の行方を検証し、高画質化に向け果てしなく進化を続ける映像と、それに伴う映画音響のあり方について説明し、サウンドスケープの観点から今後の映画録音とその再生環境について解説します。	主として高校生以上
11/02 午前	サウンドデザインと音の可能性	岡田晴夫（パイオニア株式会社）	CDなど音楽のミキシング作法、街音・自然の音のフィールド・レコーディング、音をテーマにしたWebコンテンツの制作、ユーザーインターフェースとしての音の役目など、様々なシーンでの音のデザインを通して音の持つ可能性を探ります。	主として高校生以上
11/02 午後	サウンドデザインと音の可能性	岡田晴夫（パイオニア株式会社）	CDなど音楽のミキシング作法、街音・自然の音のフィールド・レコーディング、音をテーマにしたWebコンテンツの制作、ユーザーインターフェースとしての音の役目など、様々なシーンでの音のデザインを通して音の持つ可能性を探ります。	主として高校生以上
11/03 午前	日本庭園にひそむ音風景	土田義郎（金沢工業大学 環境・建築学部 建築系）	私たちの文化遺産として、今も多くの庭園が残されています。庭園はその時代の世界観を色濃く反映しています。現実世界では得がたい何かを実現しようとしていたのです。それは視覚的な美だけではありません。聴覚的にも工夫がこらされていたのです。ここでは大名庭園である金沢の兼六園を事例として日本庭園の中の音風景について解説します。	主として高校生以上
11/03 午後	まちの音に耳をすまして、まちを再発見～市民参加によるワークショップの実践紹介～	小菅由加里（作曲家・音の泉サロンはままつ分室）、西村昌子（音の泉サロン）	私たちが住んでいるまちでは、どんな音が聞こえているのでしょうか？鳥や虫の声、足音、車の音・・・あらためてじっくり耳を傾けてみると様々な音が溢れています。ここでは、浜松市及び静岡市において市民を対象に行っている音散策の様子を紹介し、音を手がかりにまちの営みを知る面白さを探っていきます。「耳をすます」体験ワークショップ付き。	小学校高学年以上
11/09 午前	音のデザイナー感性に訴える音をつくるー	岩宮 眞一郎（九州大学）	「デザイン」というと、一般に視覚に訴えるものと認識されていますが、「音」にも「デザイン」があります。本講演では、「製品音のデザイン」「サイン音のデザイン」「風景の音のデザイン」「映像の音のデザイン」などの事例を通して、音のデザインの必要性、可能性、将来性などについて考察します。	主として高校生以上
11/09 午後	手回しオルゴールの音風景	佐々木幸弥（武蔵野美術大学）	オルゴールは18世紀末に誕生した、自動的に音楽を奏でる機械です。その独特かつ魅力的な音色は、いつも私たちの心を和ませてくれます。ここでは楽器としての特徴を持つ手回しオルゴールと、新たな音具として開発した5音階手回しオルゴールを紹介して、そこから生み出される音環境について解説と実演を行います。	子どもから大人まで
11/10 午前	音ってなんだろうーいろいろな音の体験ー	公益社団法人日本騒音制御工学会	私達の身の回りにはいろいろな音を出すものがあふれています。中でも工場、自動車、新幹線、飛行機などは、ちょっとうるさい音を出していると感じられているでしょう。こういった「騒音」を少しでも抑えて、快適に暮らすために様々な取組みがなされています。今回は音の高さや大きさはかりながら音を聞いてみたり、騒音対策の仕組みを体験したりしながら、音について学びます。	小学生以上
11/10 午後	音ってなんだろうーいろいろな音の体験ー	公益社団法人日本騒音制御工学会	私達の身の回りにはいろいろな音を出すものがあふれています。中でも工場、自動車、新幹線、飛行機などは、ちょっとうるさい音を出していると感じられているでしょう。こういった「騒音」を少しでも抑えて、快適に暮らすために様々な取組みがなされています。今回は音の高さや大きさはかりながら音を聞いてみたり、騒音対策の仕組みを体験したりしながら、音について学びます。	小学生以上
11/23 午前	静寂を聴く	佐故圭子	「世界の音のデザインを改良したいと望んだとしても、それは沈黙がわれわれの生活の中で積極的な状態として回復された後に、初めて実現されるものであろう。」と、M.シェーファーは言う。心の内なる雑音をしずめ、静寂を聴く体験をしてみましょう。	主として高校生以上

サウンドスケープの教室 詳細スケジュール

午前の部は11:30~12:00、午後の部は13:30~14:00

日時・時間帯	タイトル	講師	概要	主な対象
11/23 午後	音を楽しむONGAKU	池田邦太郎（帝京平成大学現代ライフ学部 児童学科）	年齢を問わず音痴だったり不器用だったり理由で「音楽」に苦手意識をもつ人は多いでしょう。その理由はただ一つ、苦手意識を持つ人の知っている音楽が学校音楽科教育によって植え付けられた再現芸術としての音楽、上手下手のある音楽だからです。上手下手の存在しない「音」を「楽」しむだけで成立するONGAKUの世界を紹介します。	子どもから大人まで
11/24 午前	ミュージアムジークからサウンドスケープへ	松本 玲子（青山学院大学大学院総合文化政策学専攻科博士課程）	博物館で様々なミュージアム・コンサートが開催されている中、展示会の内容とリンクしたコンサートを「ミュージアムジーク」と名付けて演奏してきました。このような「音楽と博物館の関係作り」から、「博物館の音風景」へと耳が開いていったプロセスを辿ることによって、日本の博物館のサウンドスケープを探ってゆきます。	主として中学生以上
11/24 午後	火の見櫓の音風景	塩見寛（kei_まちづくりネットワーク）	半鐘を叩いて火事を知らせていた「火の見櫓」は、日本のコミュニティのシンボルでもあり、また生活の安全・安心をめざす人々の心にいつもあったものでした。その機能が今は無くなり、存在すら少なくなっていますが、火の見櫓は日本の原風景として貴重です。火の見櫓の音風景について、語ります。	主として高校生以上
11/30 午前	「庭の音風景計画」から「地域と暮らしのデザイン」へ	鳥越けい子（青山学院大学 総合文化政策学部）	「家」という日々の居住空間を、地域の風土に繋げていくのが「庭」。サウンドスケープの考え方をもとに整備した庭をもつ瀧廉太郎記念館（大分県竹田市）の歩みと、その庭に深い関係のある教室担当者の自邸とそでの暮らしを例に、庭の音風景が地域と暮らしのデザインにとっても重要な意味をお話します。	子どもから大人まで
11/30 午後	日本庭園の音風情	曾和治好（京都造形芸術大学）	まず、日本の音風景について概説します。小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が指摘する日本人の自然音嗜好。特に虫の音を好む日本人の音感性と自然について考え、次いで、飛鳥時代、日本庭園に導入された噴水からはじまり、平安時代の作庭書『作庭記』に記載された詳細な水景の作り方などをおして、日本庭園における水音のデザインについて考えます。さらに後半では、桂離宮庭園と「鼓の滝」、詩仙堂庭園と「ししおどし」、對龍山荘庭園における植治の水音の意匠など、日本庭園文化の持つ音感性及音風情の具体的な考察を通して、「静けさ」という感性に迫りたいと思います。日本文化に含まれる音風景の多様性を考えることが、私達の生活や文化の豊かさの再認識につながるのではないのでしょうか？	主として高校生以上
12/01 午前	橋の下の響きからまちを読む	鷺野宏（都市楽師プロジェクト）	まちには、それぞれの場所ごとに「その場らしさ」というものがあります。ここでは、音楽家と日本橋川を船で移動しながら、都市環境を楽しむ作品「名橋たちの音を聴く」の記録をもとに、普段気づかない橋毎に異なる響きの違いなど、船の移動と共に刻々と変化する音楽の聴こえ方とその変化の魅力についてご紹介します。	主として高校生以上
12/01 午後	自己肯定感と感性を育てるサウンドエデュケーションの実践	神林哲平（早稲田実業学校初等部）	時間に追われる教育現場の現状を踏まえ、短時間でできるサウンドエデュケーションのワークシートを作成しました。どの指導者にも取り組みやすいような構成内容になっており、授業だけでなく朝学習や帰りの会などの時間に活用することも可能です。この活動は、自己肯定感と感性を育てるために有効な手段であると考えています。	子どもから大人まで